

特別活動(中学校)

特別活動改訂の趣旨はどうなっているのか。

平成20年1月の中央教育審議会の答申において、教育課程の基準の改善のねらいが示されるとともに、各教科等別の主な改善事項を示している。このたびの中学校特別活動の改訂は、これらを踏まえて行われたものである。

答申の中で、特別活動の改善の基本方針については、次のように示されている。

1 改善の基本方針

- 特別活動については、その課題を踏まえ、特別活動と道徳、総合的な学習の時間のそれぞれの役割を明確にし、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性の育成を図るという特別活動の特質を踏まえ、特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する。また、道徳的実践の指導の充実を図る観点から目標や内容を見直す。

- 特別活動と道徳、総合的な学習の時間のそれぞれの役割の明確化
- よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度、自治能力の育成を重視
- 道徳的実践力の指導の充実を図る観点からの目標や内容の見直し

- 特別活動の各内容のねらいと意義を明確にするため、各内容に係る活動を通して育てたい態度や能力を、特別活動の全体目標を受けて各内容の目標として示す。

- 育てたい態度や能力を、特別活動の全体目標を受けて各内容の目標として明示

- 子どもの自主的、自発的な活動を一層重視するとともに、子どもの実態に適切に対応するため、発達や学年の段階や課題に即した内容を示すなどして、重点的な指導ができるようにする。その際、道徳や総合的な学習の時間などとの有機的な関連を図ったり、指導方法や教材を工夫したりすることが必要である。

- 発達や学年の段階や課題に即した内容を示すなどして指導の重点化
- 総合的な学習の時間などとの有機的な関連
- 指導方法や教材を工夫

- 自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況が見られたりすることから、それらにかかわる力を実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢の子どもたちからなる集団による活動を一層重視する。

特に体験活動については、体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視する。

- 体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動の一層の重視
- 体験活動の振り返り、ことばでのまとめ、発表し合うなどの活動の重視

2 改善の具体的事項

- 学級活動については、①学級や学校の生活づくり、②適応と成長及び健康安全、③学業と進路の三つの内容から構成することとする。その際、発達段階を踏まえて、自らよりよい学校生活の実現に取り組む意欲の向上、集団や社会の一員としての守るべきルールやマナーの習得、望ましい勤労観・職業観の育成、将来への希望と自立といった人間としての生き方の自覚などにかかわる事項に重点を置き、内容を整理する。

また、いわゆる中1ギャップが指摘されるなど集団の適応にかかわる問題や思春期の心の問題の重要性に鑑み、よりよい人間関係を築くための社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れる。特に、中学校入学時には、小学校との接続に配慮して、指導の重点化を図る。

- 学級活動は①学級や学校の生活づくり、②適応と成長及び健康安全、③学業と進路の三つに構成
- 人間としての生き方の自覚などにかかわる事項に重点を置き、内容を整理
- よりよい人間関係を築くための社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に導入
- 中学校入学時に、小学校との接続に配慮して、指導を重点化

- 生徒会活動については、学校内外における異年齢の子どもたちからなる集団による健全な人間関係の広がり、よりよい学校生活を主体的に築こうとする自治的能力や責任感の育成を重視する観点から、具体的な内容を示す。

- 健全な人間関係の広がり、自治的能力や責任感の育成を重視する観点から、具体的な内容の明示

- 学校行事については、集団への所属感や連帯意識を深めつつ、学校や社会の中での様々な人とのかかわり、生きること働くことの尊さを実感する機会をもつことが重要である。また、本物の文化に触れ、文化の継承に寄与する視点をもつことが必要である。これらのことを踏まえ、職場体験、奉仕体験、文化的な体験などの体験活動を重視する観点から、学校行事の内容について改善を図る。

- 生きること働くことの尊さを実感する機会の設定
- 本物の文化に触れ、文化の継承に寄与する視点
- 職場体験、奉仕体験、文化的な体験などの体験活動を重視する観点から、学校行事の内容を改善